

## 太田記念美術館／戸栗美術館

# 青のある暮らし



紅、藍染など、日本人が発展させてきた色に関する材料を見てくると、日本人が魅せられてきた色について考えてみたくなります。

幕末から明治にかけて来日した外国人を驚かせたもののひとつが、藍染の青色が至る所で見られることでした。職人の着ている作業着も農民の野良着も、ほとんどが藍染でしたし、店にかかる暖簾、浴衣、手拭など、実に様々なところに青がありました。

藍染については[四季報 45「材料と技」](#)でとりあげましたが、日本では江戸時代になって木綿の普及とともに、急速に全国に広がりました。化学染料が入ってくるまで、藍染は日本の代表的な染色法でした。

一方、現在のわれわれがイメージする江戸時代の青といえば、何と言っても浮世絵に見る青ではないでしょうか。葛飾北斎の富嶽三十六景、歌川広重の東海道五十三次などに見られる大胆な青の構図は、ゴッホなどの印象派の画家たちにも大きな影響を与えました。北斎の青は「ホクサイブルー」と呼ばれ、いまでも人を引き付けて止みません。

私は、この大胆な青の素材は、藍を原料とした植物由来の染料だと思っていました。ところが調べてみると、藍も一部は使われているものの、ほとんどはベロ藍と呼ばれる顔料であることがわかりました。18世紀にドイツで発見されたベルリンブルー、それがなまってベロ藍と呼ばれました。現在のプルシャンプルーに相当する顔料で、合成顔料として最も初期のものです。日本へは、18世紀半ばにオランダ船によりもたらされ、伊藤若冲など、ごく一部の画家には使われていたようです。本格的に日本に広がったのは19世紀に入ってからで、富嶽三十六景が発表された1830年頃になるとほとんどの浮世絵にはベロ藍が使われるようになりました。

ベロ藍を使うことで、浮世絵の色の世界は一挙に広がりました。北斎や広重が大胆な構図の風景を浮世絵にできたのは、ベロ藍により、青の世界を様々に表現できたことも大きな要因のようです。

そんなこと漠然と思っていたところ、東京、原宿にある浮世絵専門の美術館 太田記念美術館では「青のある暮らしー着物・器・雑貨」と題する展覧会が開かれていました。

ベロ藍登場以前の作品も展示されています。その多くは、植物由来の染料を使っているせいか、現在ではほとんど褪色してしまい、青の魅力は感じられませんでした。北斎、広重



北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」 今回は展示されていませんでしたが、ホクサイブルーの傑作です。



左 月岡芳年「風俗三十二相 むまさう 嘉永年間女郎之風俗」 天ぶらの入った青の皿、つけ汁の入った縦縞文の鉢が印象的です。中央 葛飾北斎「富士三十六景 東都浅草本願寺」。右 歌川広重「名所江戸百景 神田紺屋町」紺屋町は染物職人が多く集まった町でした。

の時代、それまで美人画など、人物中心であった浮世絵は、風景という新しい素材を対象とするようになったのですが、それもまたベロ藍などの新しい絵具の登場によるところが大きいと考えられます。

なお、展示の多くはやはり美人画ですが、そこに様々な青色のものが描かれています。着物の柄に使われた青、青で彩られた食器など様々の器があります。鉢植えの朝顔や万年青は、青の文様のちりばめられた陶磁器に入れられていますし、化粧品の紅や白粉も陶器に入れられています。こうみてくると、やはり江戸という時代は、青に囲まれていたのだと実感します。

また、この青のある暮らしの連携企画として、同じ渋谷区にある戸栗美術館では「青のある暮らしー江戸を染める伊万里焼」展が開催されています。戸栗美術館は、陶磁器専門の美術館で、特に古伊万里のコレクションでよく知られています。伊万里焼は日本初の国産磁器であり、その特徴は白い素地に青色の文様を描いた染付（そめつけ）です。呉須（ごす）と呼ばれる酸化コバルトを発色の主成分とする顔料で文様を焼きつけた後、釉薬をかけて高温焼成すると青色に発色にします。その呼び名は、藍染にちなんで名づけられたといえます。白い磁器と青の紋様というコントラストが見事ですし、文様が色あせないのも魅力のひとつです。もともとは非常に高価なもので、大名などの上流階級で用いられていましたが、18世紀に入ると需要層の拡大、食文化の発展とともに食器を中心に生産量が増加します。太田美術館展示の浮世絵にあらわれる様々の青色の陶磁器は、その頃の江戸の発展を物語っているようです。



青というキーワードで、実に広い世界が開けてくることに、驚きを覚えながら、2つの美術館をめぐるりました。  
(八代 啓一)

太田記念美術館 東京都渋谷区神宮前 1-10-10 <http://www.ukiyoe-ota-muse.jp/>

戸栗美術館 東京都渋谷区松濤 1-11-3 <http://www.toguri-museum.or.jp/>

なお、太田記念美術館の「青のある暮らし」の展示は7月28日までで終了ですが、戸栗美術館は9月22日まで開催しています。